



トークイベント

近現代美術編 プレゼンバトル



日本選抜監督

山下裕二 (美術史家) VS 中山喜一郎 (総館長)

世界選抜監督

当館のコレクションは、ダリ、シャガール、ウォーホルなど近現代作品から、重要文化財《色絵吉野山図茶壺》をはじめとする古美術まで多岐にわたり、その総数は16,000点を超えます。今回は、その魅力をお伝えすべく、美術をこよなく愛する山下裕二氏（美術史家）と中山喜一郎（当館総館長）が、数々の所蔵品の中から近現代美術コレクションに絞り、作品の魅力を語ります。当館は初めてという方にも、足しげく通っておられるという方にも、新たな発見があること間違いなし！会場でお二人の熱いバトルを体感ください。

要申込

2024.11/10 (日) 14:00-15:30 (開場 13:30～)

会場：福岡市美術館 1階 ミュージアムホール 定員：180人 料金：無料

申込方法：申込専用サイトから応募ください。1件につき2名まで受付可。申込締切：10月23日(水)

※応募多数の場合は、抽選。 ※当選者の発表は聴講券の発送をもってかえさせていただきます。

申込
専用サイト



福岡市美術館

FUKUOKA ART MUSEUM



日本選抜監督

プレゼンバトルとは？

今回は、1万点を超える近現代美術作品の中から、山下先生と中山総館長が逸品をセレクトし、その作品をバトル形式で披露。ドリームマッチ2024としてお二人が選抜監督となり、5点ずつ作品を紹介します。セレクトした作家・作品をどのタイミングでプレゼンするのか、監督の戦略も見どころ！



世界選抜監督

先鋒戦

気合とスピードで圧倒。
瞬発力と勇気を持った作家作品が有利

次鋒戦

プレッシャーに負けない精神的安定感に
優れた作家作品がふさわしい

中堅戦

自軍1、2の実力があり、精神的にもタフな
資質を持つ作家作品が望ましい

副将戦

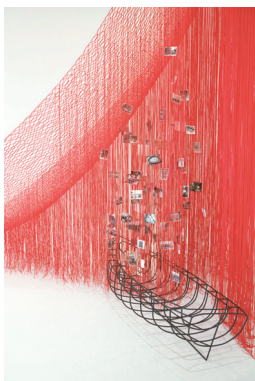
自軍の状況に応じ、試合に臨める応用力の
ある作家作品を充てることが重要

大将戦

個人戦でも優勝できる技術と精神力を兼ね
備えた自軍最強の作家作品を選ぶべし

【福岡市美術館コレクションの名品たち】

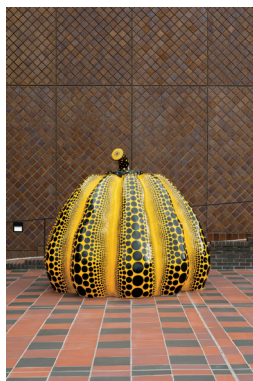
※下記作品は、プレゼンバトルの選定作品とは限りません。



塩田千春《記憶をたどる船》2023年
© JASPAR, Tokyo, 2024 and Chiharu Shiota



サルバドル・ダリ《ボルト・リガトの聖母》1950年
© Salvador Dalí, Fundació Gala-Salvador Dalí, JASPAR Tokyo, 2024 G3601



草間彌生《南瓜》1994年
© YAYOI KUSAMA 撮影:山中慎太郎
画像転載不可



マルク・シャガール《空飛ぶアトラージュ》1945年
© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2024, Chagall® G3601



アンディ・ウォーホル《エルヴィス》1963年
© 2024 The Andy Warhol Foundation for the Visual Arts, Inc. / Licensed by ARS, New York & JASPAR, Tokyo G3601



レオナルド・フジタ(藤田嗣治)《仰臥裸婦》1945年
© Fondation Fougita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2024 G3601

福岡市美術館 コレクション

当館のコレクションには、近現代美術と、江戸時代以前の古美術とが共存しています。作品が生まれた時間的・空間的幅も、紀元前5000年頃から紀元後2000年代、日本からアジア、ヨーロッパ、アメリカなど実に広く、作品の形状も絵画、彫刻、映像から屏風、陶磁器、染織と多岐にわたり、その総数は16,000点を超えました。この多様さ・多彩さこそが、当館のコレクションの最大の特徴です。



山下裕二 [美術史家]

1958年、広島県呉市生まれ。東京大学文学部美術史学科卒業、同大学院修了。明治学院大学文学部芸術学科教授。雪舟をはじめとする室町水墨画の研究を起点として、縄文から現代まで、幅広く日本美術史のアップデートを試みている。近年監修した展覧会として、「コレクター・福富太郎の眼」、近著に「商業美術家の逆襲 もうひとつの日本美術史」(NHK出版新書)などがある。



中山喜一郎 [福岡市美術館総館長]

専門分野は日本近世絵画。1981年から福岡市美術館学芸員。古代文明から現代作家、サブカルチャーまで様々な特別展を約30本企画。福岡市博物館学芸課長、美術館運営部長、副館長、館長などを経て2020年より現職。主な著書として『別冊太陽 ユーモアあふれる禅のこころ 仙厓』(監修・共著、平凡社、2016年)、『仙厓の○△□ 無法の禅画を楽しむ法』(弦書房、2003年)など。

